

NEWS



永谷園生姜部ニュース

5年目の生姜収穫祭にて 950 kg の生姜を収穫！

永谷園生姜部(顧問:永谷 泰次郎、東京都港区)は、“生姜の魅力”をさらに追求・発信すべく、今年で5年目となる「生姜の知恵試験農場」(千葉県山武市、約10a)での生姜の栽培を4月に始め、2012年10月26日(金)に収穫を行いました。栽培に当たり毎回テーマを持って取り組んでおりますが、今回は初めて生姜部ツイッターのフォロワーの方10名様(同伴者様含む)をご招待し、また昨年引き続き『「冷え知らず」さんの生姜シリーズ』でコラボレーション商品を展開している企業6社(株)アクリフーズ、岩下食品(株)、エースコック(株)、サントリー酒類(株)、(株)でん六、(株)ノルコーポレーション)にもご参加いただきました。今年は、栽培方法や収穫量の検証を目的とした3つのテーマで栽培しており、結果検証作業も同時に実施し、総勢約80名で、950kgの生姜を収穫しました。

生姜部とは？

オフィスで働く女性をターゲットに開発した生姜入りの商品、「冷え知らず」さんの生姜シリーズ(2007年6月発売)のヒットをきっかけに、“生姜の魅力”を追求する部活動『生姜部』を2007年12月に立ち上げました。部員は社員18名で、組織や職位にとらわれず構成されています。活動内容は、①契約農場での生姜の栽培、②生姜の研究、③生姜のレシピ提案、④日本全国～世界まで生姜料理の食べ歩きを中心に、生姜部ウェブサイト(<http://www.shouga-bu.com/>)にて生姜の魅力について発信しております。



2012年 生姜栽培のテーマ・結果報告

2012年の生姜栽培は、3つのテーマを設けて栽培方法や収穫量について実験的な栽培を行いました。

目的	栽培方法	
①生姜を大きく育てる	混植	・「生姜、里芋、落花生、きゅうり」を順に植え、生姜以外の作物と栽培することで、より大きな生姜を育てられるかを検証します。 ※混植することで、互いの生育が良くなると言われています。
②連作障害への対策	フミン酸の投与	・生姜は1年栽培した後は土壌が養分不足になるため、連作はできないというのが通説です。そこで、土壌微生物を活性化させる「フミン酸」を土壌に投与することで連作が可能になるかを検証します。 ※フミン酸を投与することで、生姜が大きく育つと言われています。
③収穫量を増やす	密植	・生姜を植える間隔を例年の幅よりも狭くし、栽培します。 ・少ない面積で収穫量を増やす方法について検証します。

《結果報告》

目的	検証結果	
①生姜を大きく育てる	混植	・各作物の影響の差は考えられませんでした。混植エリアでは、大きさは通常栽培の生姜よりも小さめ(500g弱)の生姜が平均的なサイズでした。
②連作障害への対策	フミン酸の投与	・通常栽培とフミン酸投与の栽培では、どちらにも連作の影響がでました。1株当たりの生姜の重量が通常の40~50%で、生姜の葉の高さも通常の約70%でした。
③収穫量を増やす	密植	・1株当たりの重量は通常とほぼ変わらず、同一面積では約1.3倍の収穫が見込まれる結果となりました。

※通常栽培の生姜の平均的なサイズ: 620~680g

※注意事項: 「生姜の知恵試験農場」での今年の栽培結果であり、一概に上記結果が得られるものではありません。栽培条件、天候、栽培場所等の影響も考えられます。

2012年生姜栽培のまとめ

今年4月13日(金)に410kgの種生姜を植え、①生姜を大きく育てる、②連作障害への対策、③収穫量を増やすの3つのテーマで栽培を行いました。長引く暑さも乗り越え、無事に生姜950kg、里いも、落花生、キュウリを収穫しました。3つの栽培テーマの中では、「密植」の優位性が確認でき、実用性が考えられる栽培方法であるという結果を得ることができました。今回の栽培方法の検証をもとに、今後も生姜の育て方についての研究を、さらに進めてまいります。

収穫の様子



生姜収穫の様子



里いも収穫





里いも



落花生



上：連作障害を受けた生姜
下：通常栽培の生姜

お問い合わせ先

お客様からのお問い合わせ先 (株)永谷園 お客様相談室 Tel. 0120-919-454
報道各位からのお問い合わせ先 (株)永谷園 広報室 Tel. 03-3432-2519